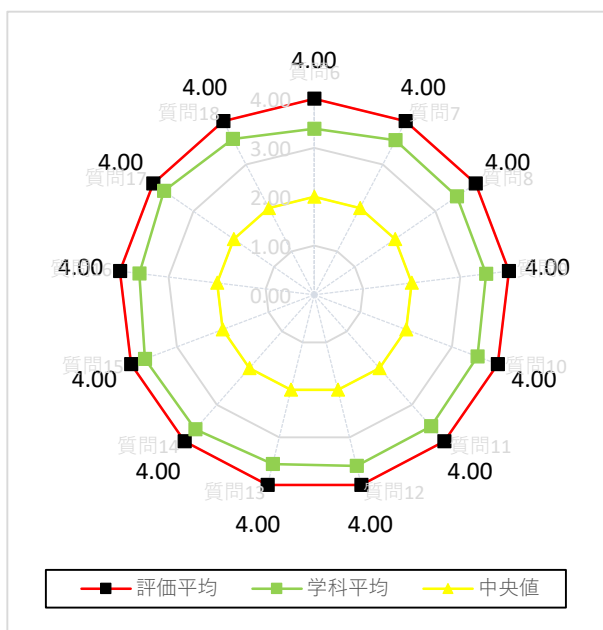
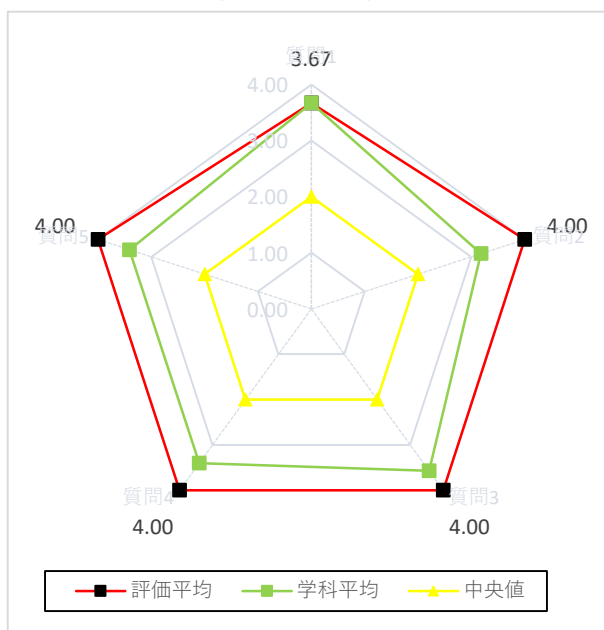


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

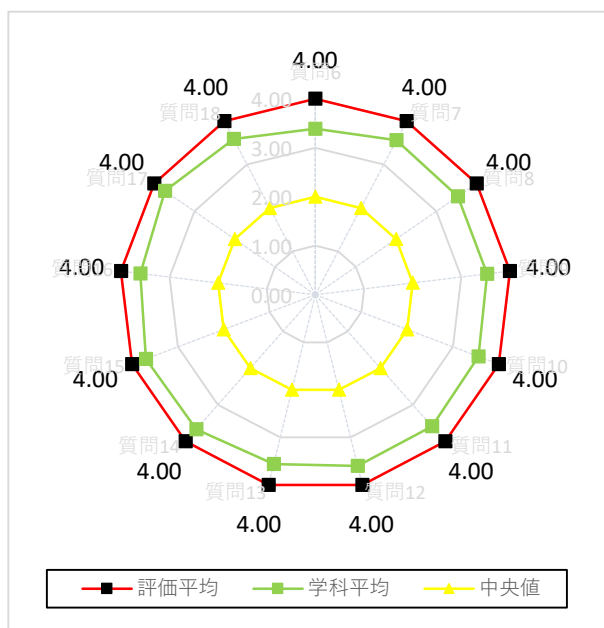
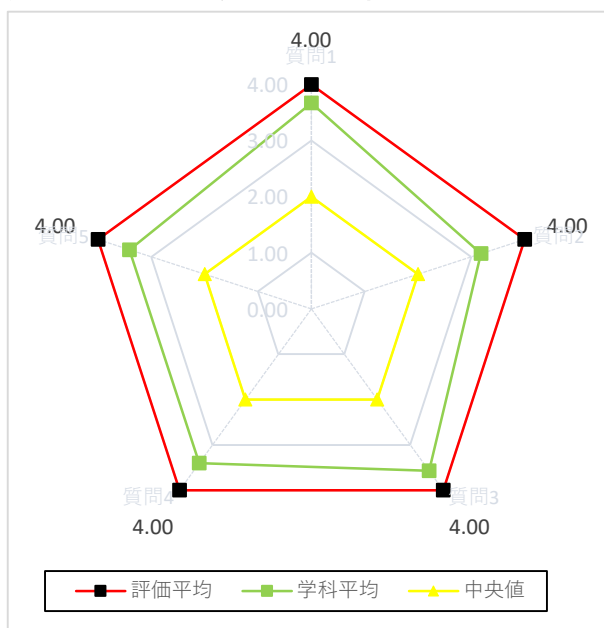
あすなろう I 基礎の授業評価結果の分析においては、質問1から18までの全てにおいて、学科平均より良いという結果となった。特別に低い項目は無かったが、コロナ禍で学生は、かなり不自由を感じた内容であったと思う。基本的な授業の進行は十分に行えていたと思われる。本授業は本学への入学生を社会へ送り出すための最初のステップとして、社会人として、管理栄養士になるための常識的なマナーやスキルを身につけさせることにあると考えられる。また、本学科での勉学への取り組みの姿勢を身につけさせることも重要である。学生は様々なボランティアを体験し、この授業の意義を感じてくれたのであろうと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

あすなろうの授業においては、授業内でのやり取りだけでなく、ポータルサイトを通じた学生との双方向のやり取りも大切である。これはポータルサイトのシステムや操作、一年間の内容も全体を把握できているので、それぞれの授業において、本授業の目標を目指して授業を進めていきたいと思う。新入生は新しい環境の中でさまざまな不安や壁にあたることもあると思うが、学科のカリキュラムの進行に沿ったアドバイスを授業の中でしていく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろう I 基礎 (初 年次教育含)	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

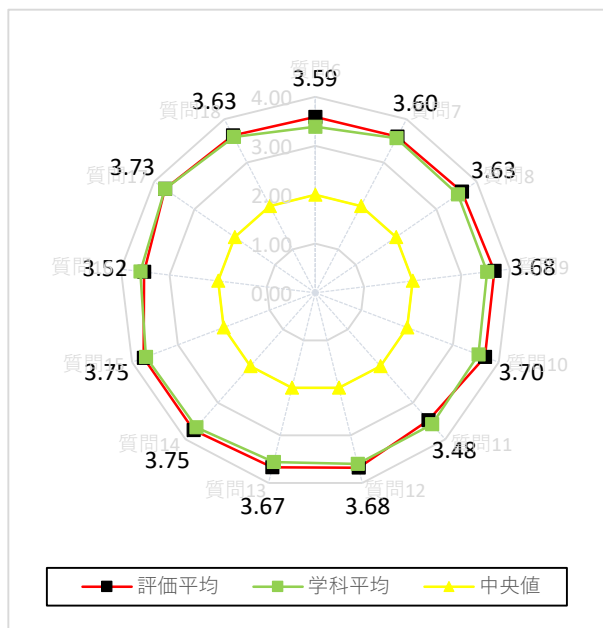
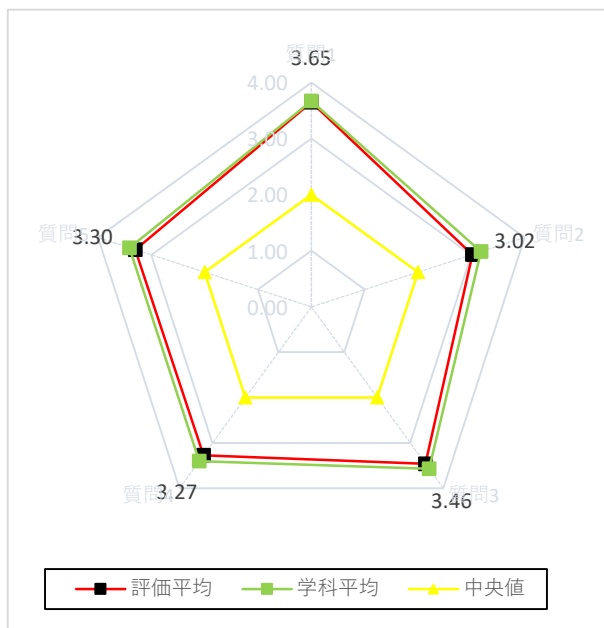
本科目は、入学後の初年度教育並びに学生と教員との信頼関係構築の場となる役割を担う科目であるが、遠隔授業が主であることから、信頼関係の構築に不安があったが、学生による授業評価結果からおおむね本科目の役割を達成できた内容であったと考えている。しかしながら、現在のあすなろう I 基礎において実施している内容が真に本学生にとって最適であるのか、他にもっと必要なものがあるのではないかと考えさせられることもしばしばあるので、授業内容そのものの改善の余地があると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

あすなろう I 基礎は、自主性・主体性を培う授業であるとともに、将来像の構築や社会人に向けての準備の場でもあることから、従来より意識している「興味の探求」や「自身の意見を発表する機会を設ける」といった自主性・主体性を促す工夫のみならず、キャリアパスを見据えた授業の内容を加える工夫を重ね、学生自身の未来の可能性をさらに広げられるよう期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		脳と認知科学	163名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

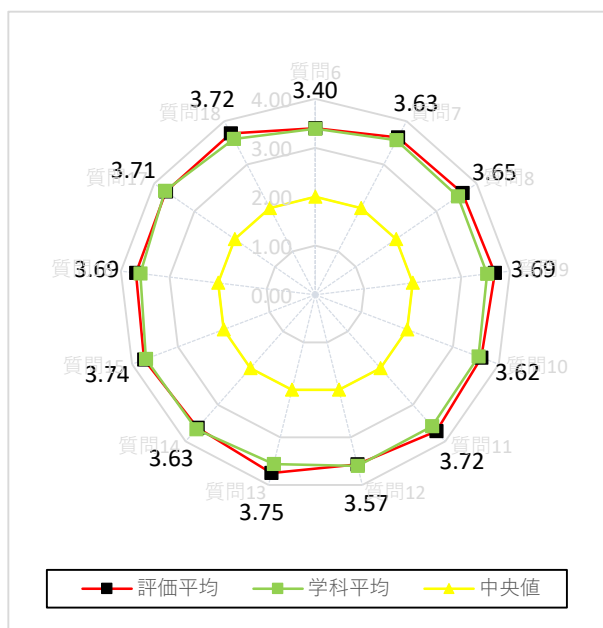
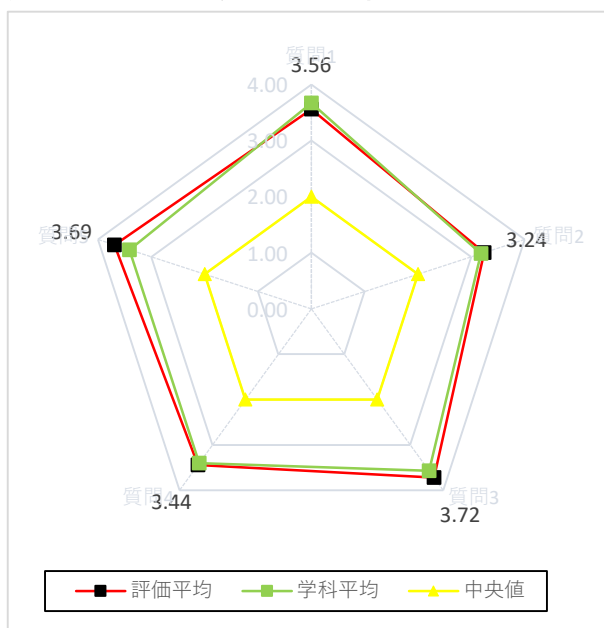
結果にかんじて、ほとんどの項目が学科平均と同等の結果であった。しかし、質問2、3、4、5、11、16など、平均よりやや下回る項目もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本講義は全学部共通かつ遠隔講義での実施だったため、相互のやり取りや学生一人一人へ気を配ることが非常に難しかった。これらの反省を踏まえ、次年度はもう少し課題を増やし学生が自ら考える時間を設けるなど工夫をしていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		くらしと経済	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

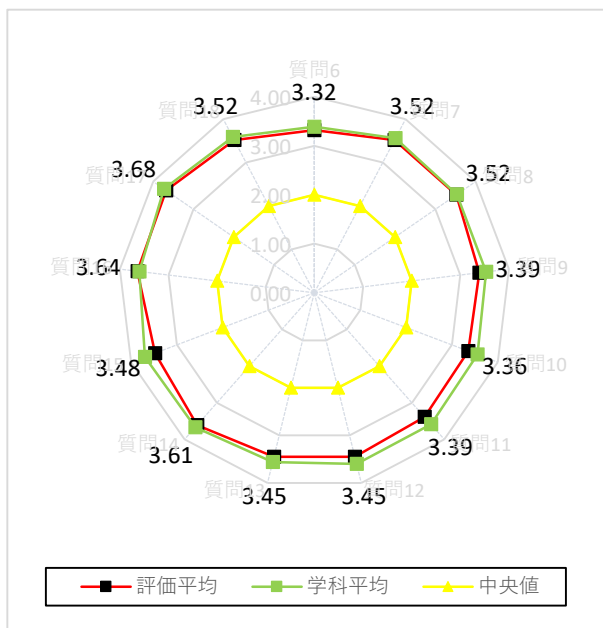
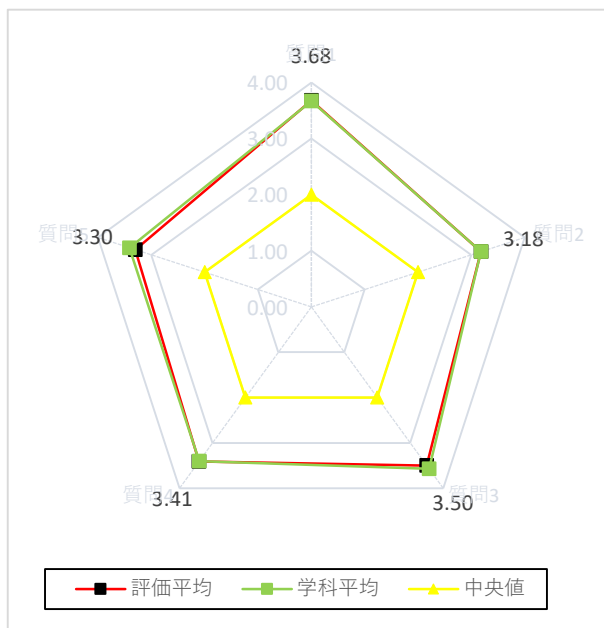
授業評価の結果は、概ね学科平均と同じであった。授業評価は、学生諸君の意見を聞くことのできる稀有な機会であり、授業の改善に大いに役立つものとする。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においては、わかりやすい資料の作成と説明をさらに向上させていきたいと考えている。また、学生諸君が飽きないように時々穴埋め形式のプリントなども作成し配布したいと思う。そして、学生諸君が経済に関する知識をできるだけ増やせるように全力で取り組んでいきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		身近な世界の物理学	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問10 ~ 13 の項目で若干平均より下の数値だった。大きな開きではないが、授業の進め方をさらに慎重にしたい。

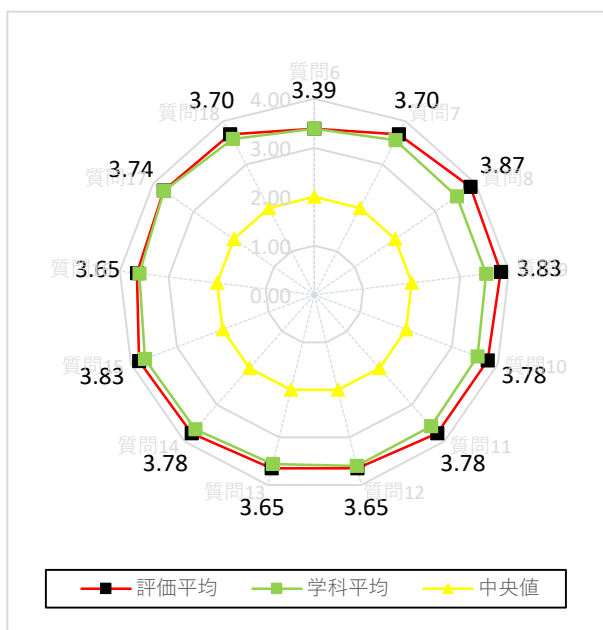
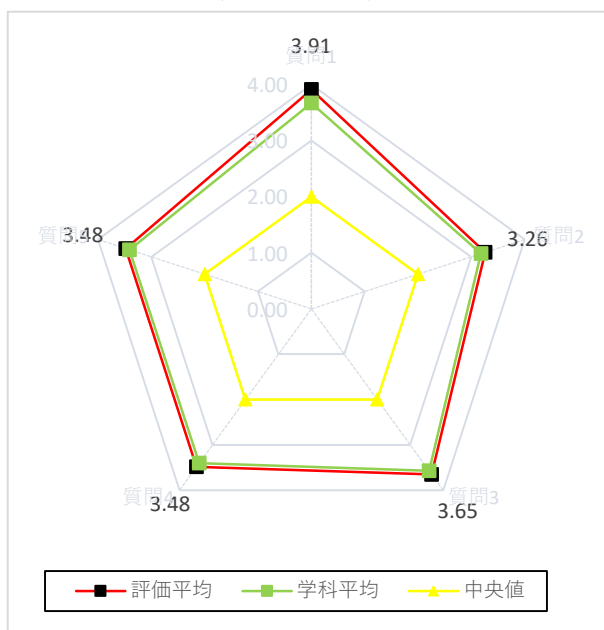
ZOOMによるオンライン授業になってから、3年目の開講となるが、学生間のコミュニケーションをすすめるため、自己紹介の時間を昨年、一昨年とも設けている。今年度も、授業時間中に授業内容や課題のことのほか、自己紹介も含めて全受講生に自己紹介の時間を設けます。

(3) 次年度に向けての取り組み

オンライン授業でのコミュニケーションの方法をいろいろ工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		健康運動科学	89名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

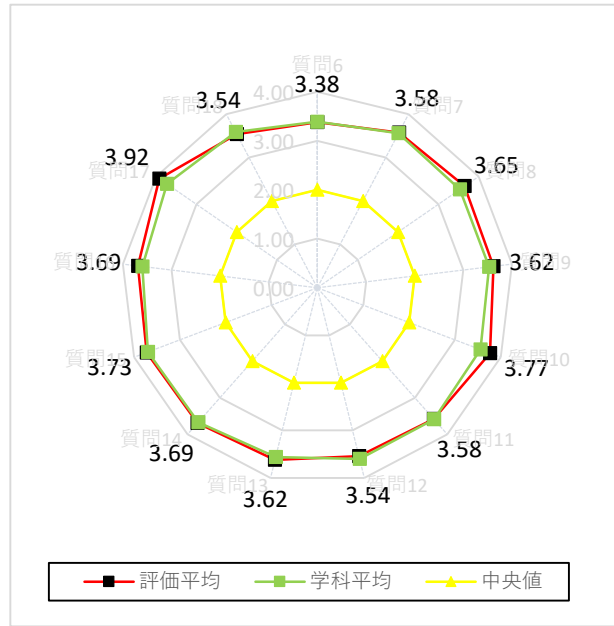
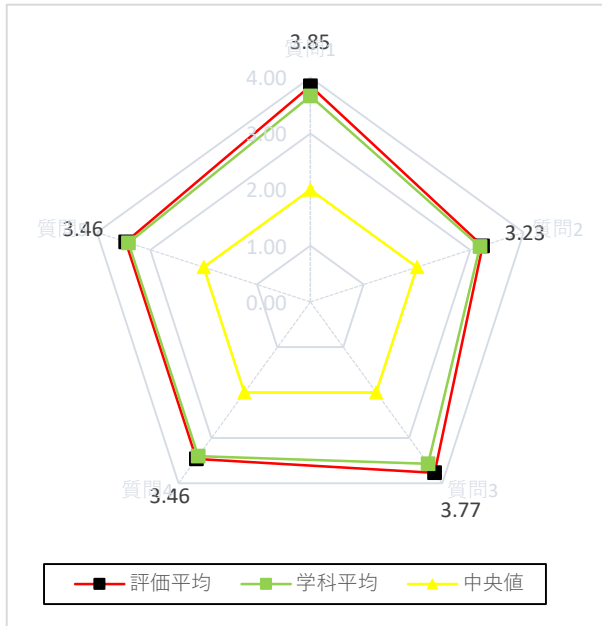
本科目は共通教育科目/健康スポーツ(選択科目)として、1年次の後期に開講している。初級・中級障がい者スポーツ指導員の資格取得に必修であり、89名が履修した。履修学生89名のうち23名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均と同程度の評価を得た。今後も学生の意欲を引き出す声かけを継続していくことが重要であると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		日本事情 (Japanese & World Issues)	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

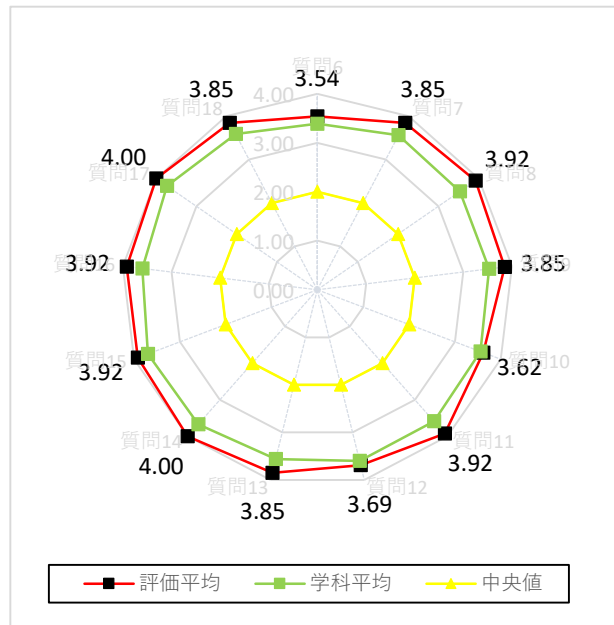
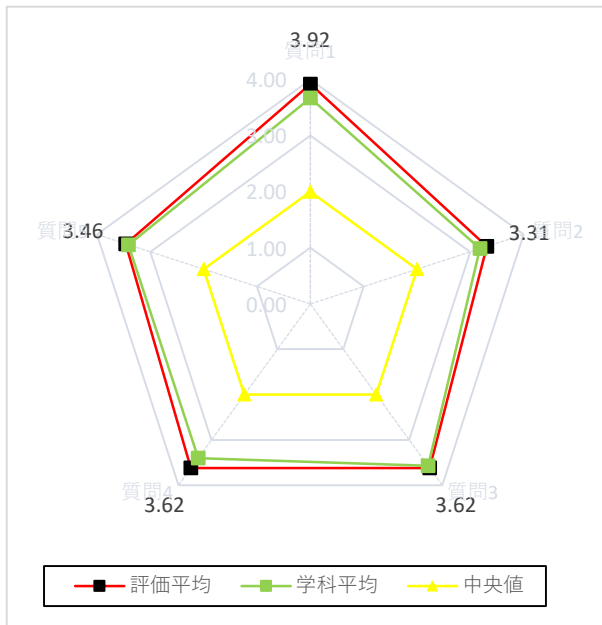
オムニバス形式にもかかわらず高い評価だと思う。学科平均と同じもしくは平均より高いという評価である。時に教員の熱心さが伝わったこと嬉しく思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度開講無し

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		Global Communication (English)	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

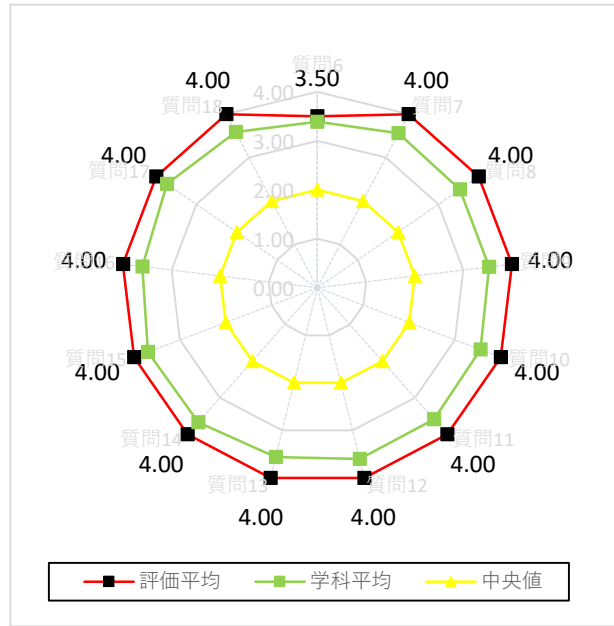
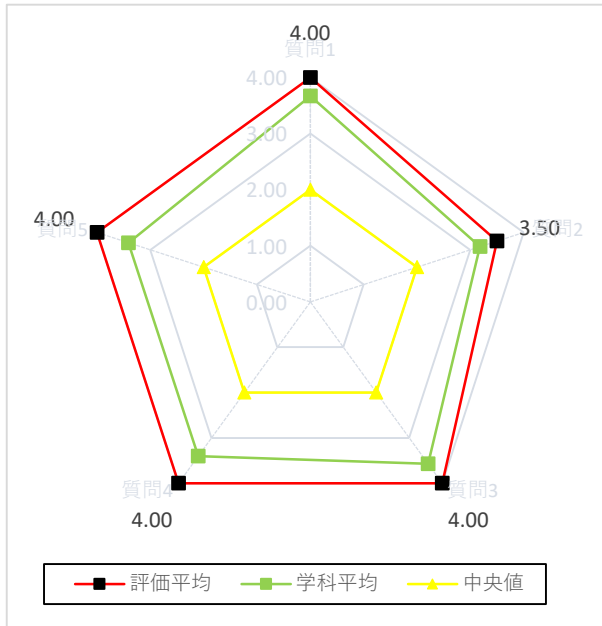
オンラインと大変な日程にしてはとてもいい評価。学生が本当に頑張った。この授業が並行するのがとても残念。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度講開無し

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 スポーツ健康福祉 子ども		語学研修	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

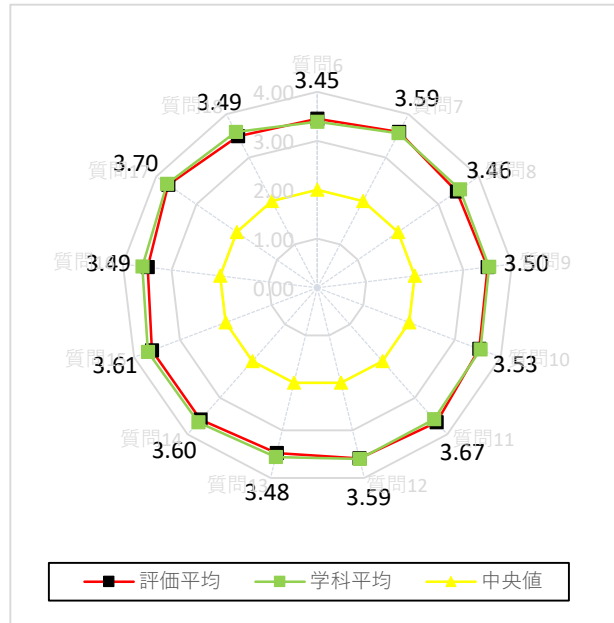
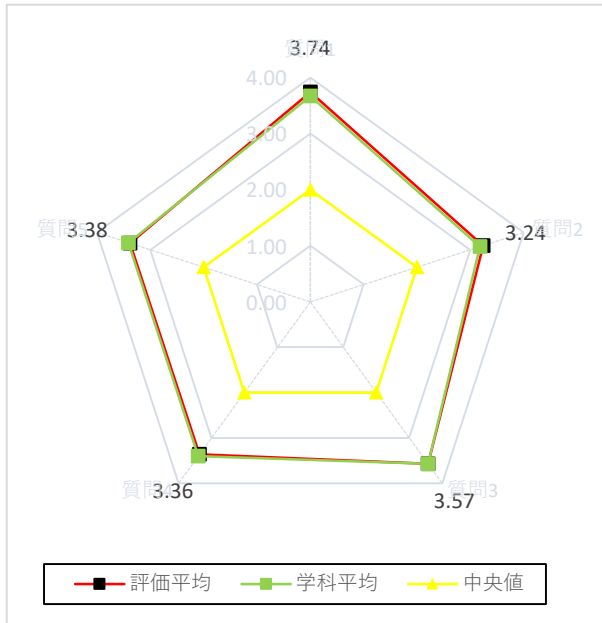
初めてのオンライン亮右学果たしたことに感謝。2週間、オンラインでとても大変でしたが、学生が頑張った。

(3) 次年度に向けての取り組み

この企画は急に決まって実施された。もともと留学したかった学生がチャレンジしてくれてありがたい。オリエンテーションや事後のインタビューもできた。コロナが収束したら普通の留学に切り替えるが、いい経験だった。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		データサイエンス入門	321名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

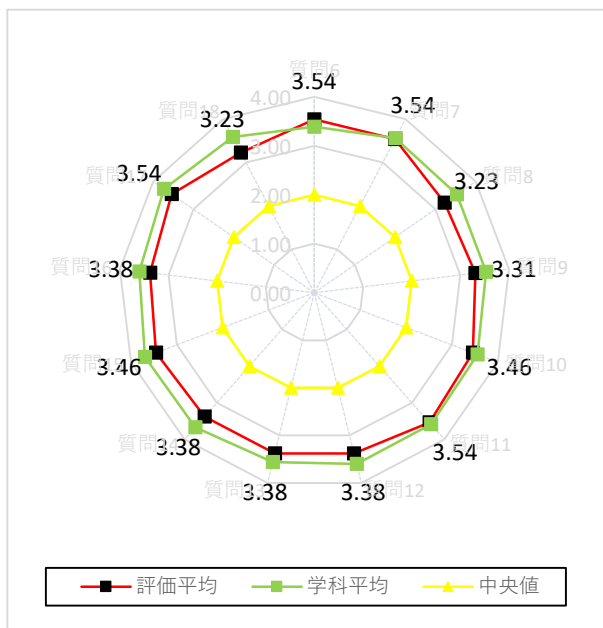
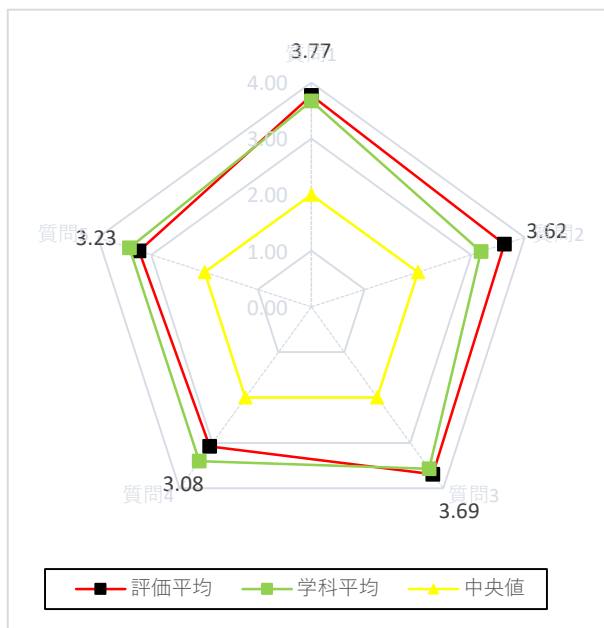
初めての全学部必修科目であった。
Zoomのキャパが上限があり同じ授業を2回した。
学生も何とか本授業の意義を理解できたかと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もわかり易くデータサイエンス入門について解説する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学セミナー I	83名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

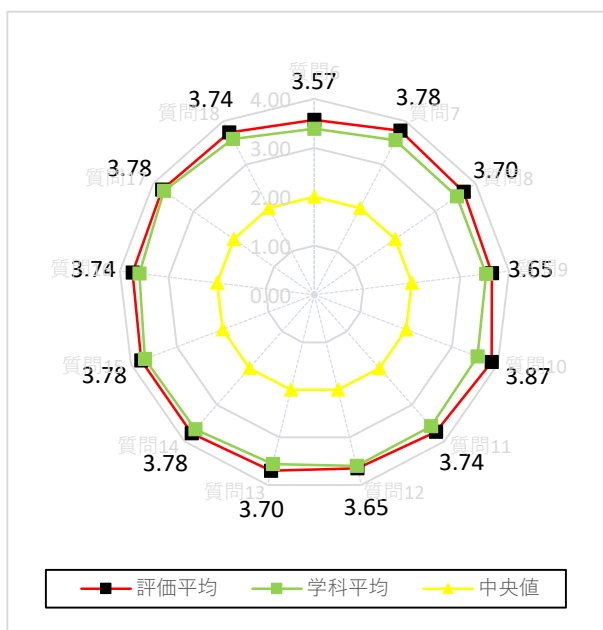
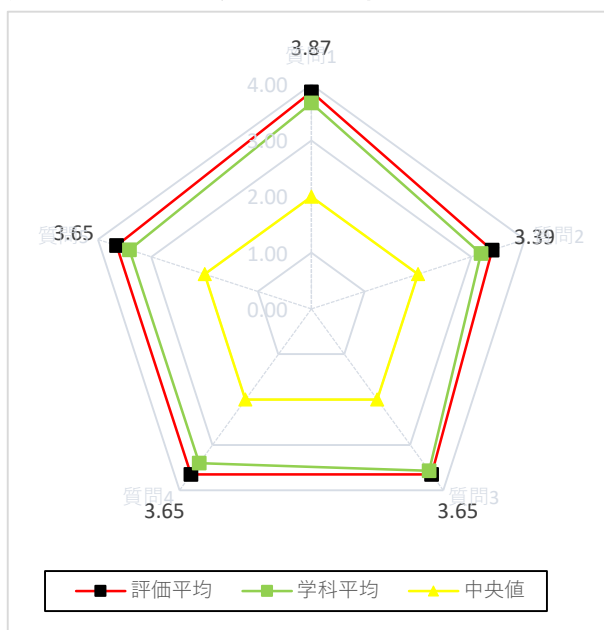
健康栄養学セミナー I の授業評価においては、各項目において学科平均とほぼ同程度にあったことから、おおむね満足できる内容であったと考えている。しかしながら、本授業は、学生自身が考え、課題を発見し・解決策を見つける展開を重視しているため、当該スタイルを苦手とする学生もいると考えられる。また、遠隔形式であったため、学友とのコミュニケーションから得られる刺激も少なかったことも、修学意欲に影響したように思われる。学生誰もが楽しく、自主性や知的な問題に取り組む姿勢の向上が達成できるよう、学生個々のレベルに応じた授業取組みのための改善は必要であると考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

健康栄養学セミナー I は、アクティブラーニングを主とする授業であるので、より意欲的に取組める授業内容になるよう授業展開を工夫していきたい。また、個々の理解度や反応に配慮したアドバイスを心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。さらには、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学	87名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

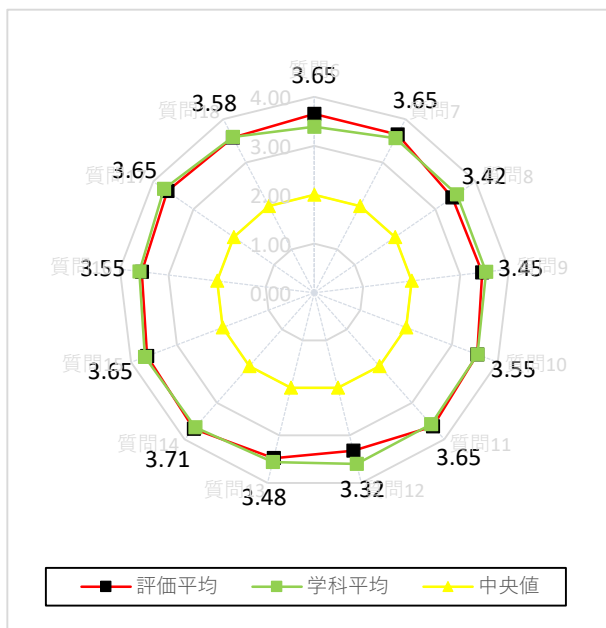
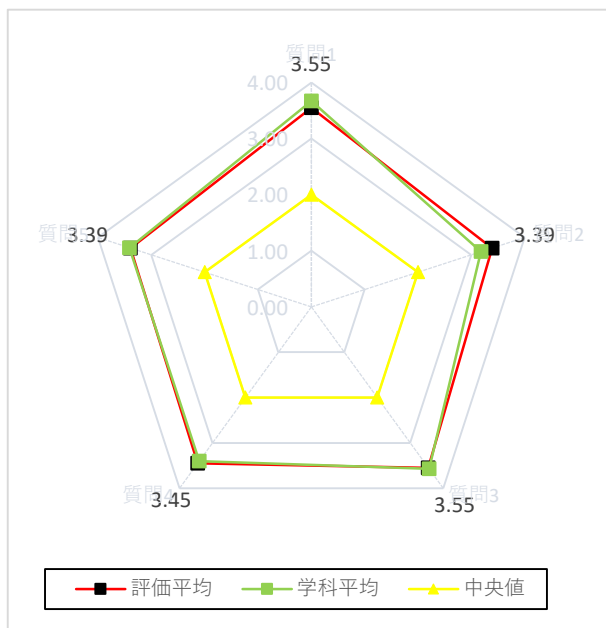
食品学の授業評価においては、項目1から14までのすべてにおいて学科平均とほぼ同じであった。特別良いところもないが、授業への関心や分かりやすさの項目において、少し難解であったと学生が感じているところがあるかもしれない。いずれの項目においても学科平均とほぼ同じであったが、年によって学生の平均的な学力やバラツキ度合いが変わるので、今後の改善の余地があると考えている。本授業は専門科目の中では基礎的な分野であるが、国家試験に向けては大切な科目の一つでもある。多くの学生は、国家試験の為だけでなく、食品に関しては興味関心を持っているはずであるので、そういった授業にしていく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

食品学の授業評価においては、特に大きな課題は無いようであった。次年度からは本格的に対面授業となるので、対応した授業内容への改善が必要である。学生の中には明らかに理解ができていない者や理解に苦労している者も見られた。食品学の基本的な知識において、より丁寧な説明が必要であると感じている。また、前年度も小テストや課題プリントを実施したことは良かったと思うので、より試験勉強に直結するように小テスト、課題、定期試験をリンクさせて臨みたいと考えている。また、学生が授業に能動的に参加するような授業となるように、ホワイトボードやパワーポイントの使い方を考えたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学実験	95名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

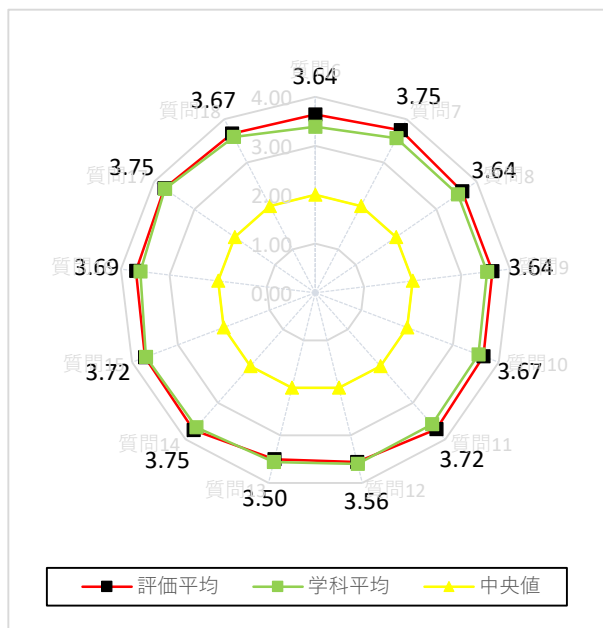
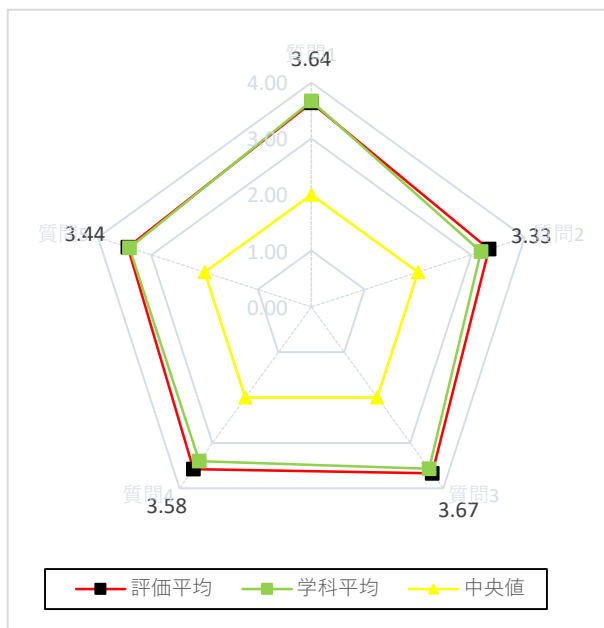
食品学実験の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、改善の余地はあると思われる。化学を背景にした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとっては難解に感じることがあった。実験の内容としては成分表の理解に重きを置いており、実験としてはやや面白みにかけるところがあるかもしれない。しかし、資格取得のための基礎知識としては食品学においては必須と考えるので、内容の変更は考えていない。

(3) 次年度に向けての取り組み

化学を背景とした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとって難解に感じるところがある。この点については、説明や計算を一緒にすることなど、もう少し時間を取りたいと思っている。実験内容の部分的な変更や、できるだけ全員が主体的に取組めるような方法などを少しずつ工夫していきたいと思っている。化学実験は危険も伴うものなので、何より事故やケガが起こらないよう細心の注意を払っていききたい。また、定期試験の内容と評価についても工夫が必要と思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品衛生学	99名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1～5をみると、学生は、他の科目とあまり変わりなく取り組んでいたことがわかった。質問3、4がやや学科平均より高いので、どちらかという意欲をもって授業に臨んでいたようでもある。

質問6～18では、学科平均とほぼ同じか、少し上回っていることがわかった。質問7、質問11、質問14、質問15、質問17は、評価が3.7を超えており、教員の熱意や授業をわかりやすくしようと工夫している点が評価されていることがわかった。自由記述でも、国家試験を関連付けて授業をしている点、語呂合わせのプリントを配布している点を評価している学生がいた。時間をかけて授業準備を行い、また、毎年、見直しをしているので、この点が評価されていることは、非常に嬉しかった。

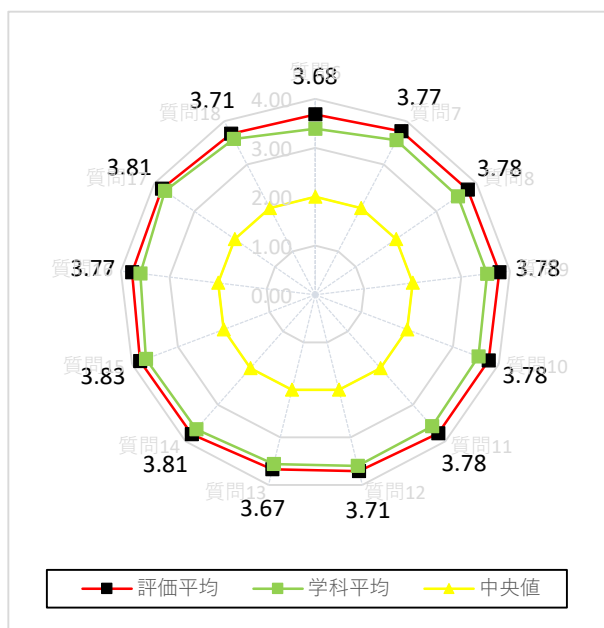
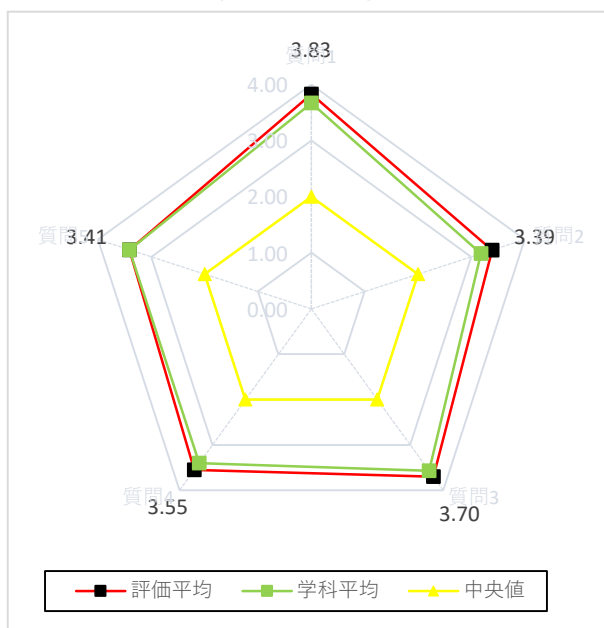
(3) 次年度に向けての取り組み

授業については高評価を得ており、また、自由記述でも進行ペースはちょうどよいという記載が複数あったので、現在の授業スタイルを維持していきたいと思う。ただ、授業の初めに行っている前回の復習については、「解答をいうのが早い」「解答を表示してほしい」といった要望があった。解答を表示するとわかりやすいと思うが、あまりにもお膳立てしすぎると、社会人になったときに困る学生がでると思うので、なぜ解答を表示したり、配布しないか説明した上で、解答をゆっくりいうことで対処していきたいと思う。

今回は、99人中36人（回答率36%）であった。授業の最後に回答を呼び掛けたが、次年度は、もっと多くの学生に回答してもらえるように声掛けをしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		調理学	113名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

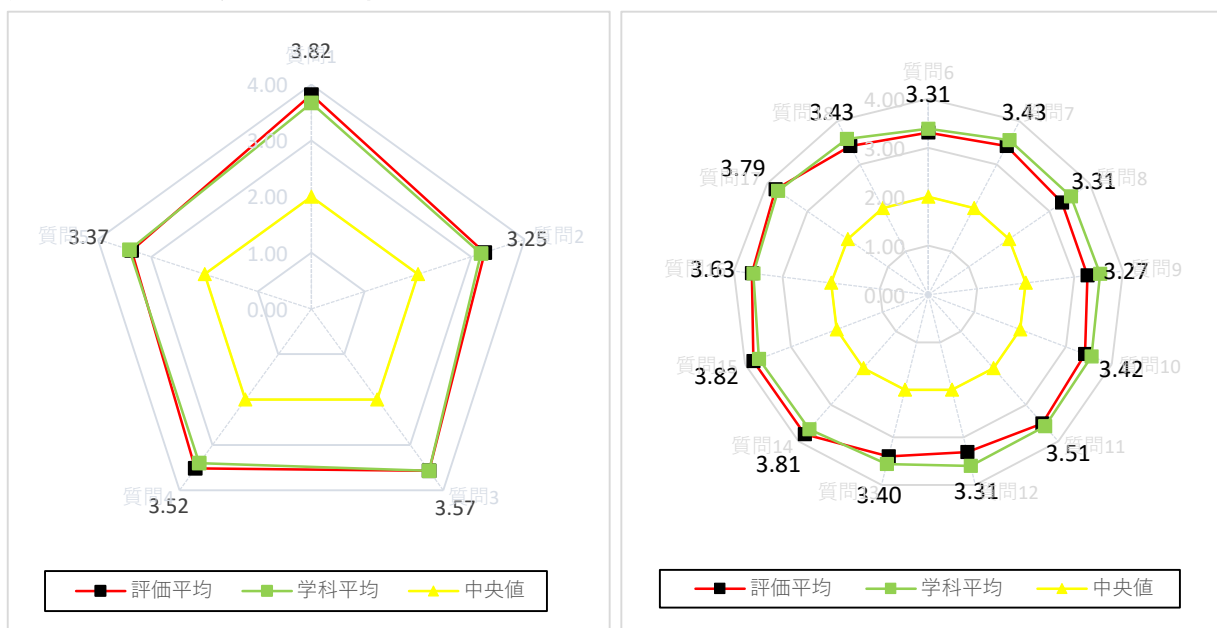
調理学の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、個別コメントを見ると授業のペースが速いと回答した者もいたことから、個々の理解度や反応に配慮し、より双方向的な授業となるよう改善の余地はあると思われる。調理に関する雑学も交えつつ、国家試験にも関連する内容であることから、1年生時より国家試験問題にふれられる機会を設ける工夫をしたことは良かったと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

遠隔形式では、反応ボタンを細やかに活用するなど授業スピード等学生の理解度に配慮しつつ、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、国家試験においては最も基礎となる科目でもあることから、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		基礎栄養学	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

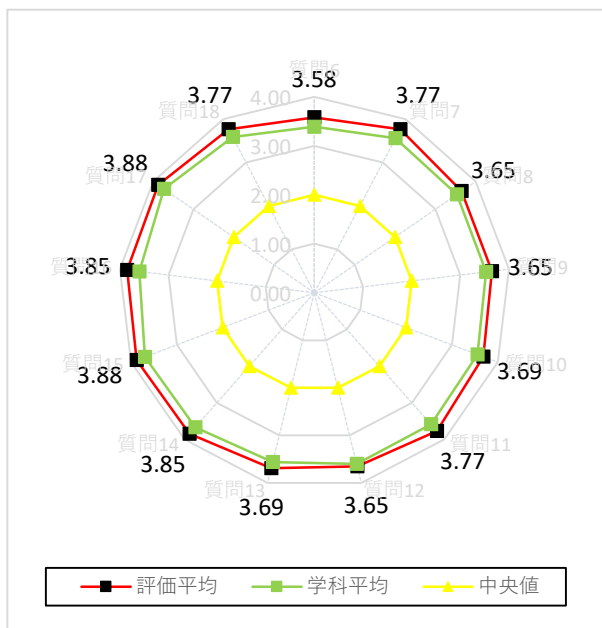
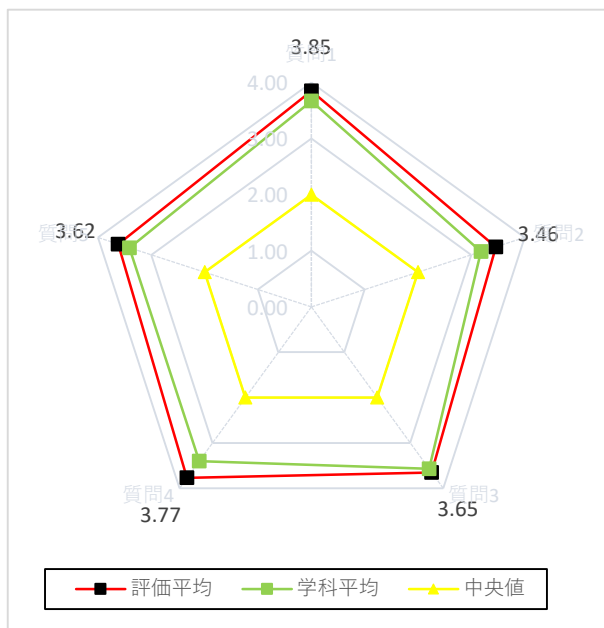
授業評価において学科平均に比べると全体的に低い評価であった。特に項目8-13の評価においては遠隔授業への不慣れさを反映していると思われる、資料作成や授業展開など改善の必要があることを痛感した。遠隔授業では学生の反応を掴みにくく理解度も把握も難しかったため、途中から授業に関する練習問題を毎回取り入れるようにしたことは、学生からのコメントから判断しても良かったと思う。国家試験に必要な科目ではあるが、栄養学というものの入り口になる科目であるので、興味・関心が持てるような内容に工夫する必要があると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

遠隔授業の実施であれば、反応ボタンを細やかに活用するなど授業の進度は学生の理解度に配慮したいと思う。資料においては口頭説明を前提とした内容で作成したため、説明を文章化するなどの改善をしたいと考える。定期試験においては学生の習熟度に幅が見られたことから、授業展開については説明の流れを工夫し、より丁寧な説明が必要であると感じている。また、授業内容とリンクさせた練習問題を課題として実施し、解説を行うことで理解度を深めたいと思う。対面授業であれば、ホワイトボードやパワーポイント、資料の使い方を工夫したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		基礎栄養学実験	89名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

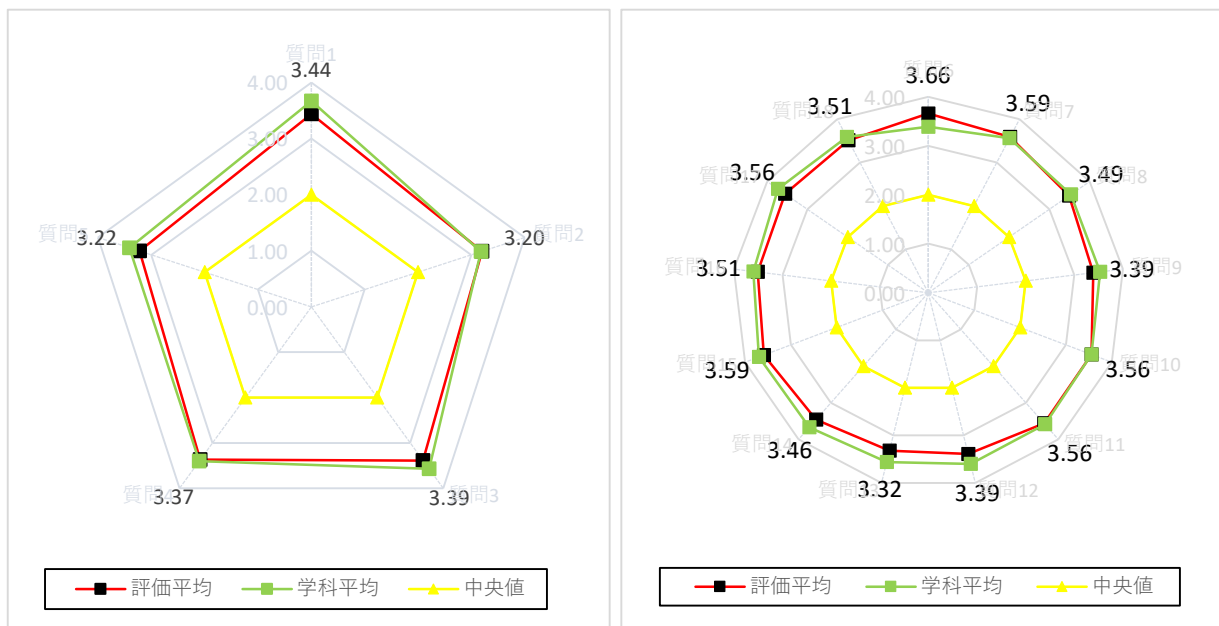
授業評価においてはすべての項目において、学科平均と同じまたは少し上回るレベルにあった。この科目は入学後初めて受講する実験であり、座学ではないという点が評価が低くない一因であるとも感じるが、学生にとっておむね満足できる内容であったと考えている。授業時にはグループごとに対応ができたので、作業等を確認しながら丁寧に授業を進めることが出来たと思う。この科目ではレポートを課すが、学生の自己評価も高く、各自が頑張っており取り組んだことが窺える。今回は授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回は授業アンケートへの回答率が低いことから、全体の評価を反映したものではないと考えている。授業時間と準備可能な実験機器や器具の関係上、実験説明をまとめて行ったが、実際に実験を行うまで期間が空いてしまうので、この点には工夫が必要と考えている。また、提出されたレポートの内容から判断すると、学生によって理解度に差があると思われる、実験の内容についてはより丁寧な説明が必要であると思われる。授業の時間配分も踏まえ、実験内容の部分的な変更や、できるだけ全員が主体的に取り組めるような方法などを工夫していきたいと思う。なお、この科目は入学後に初めて受講する実験でもあるので、化学薬品や実験器具の取り扱いに留意し、事故やケガが起こらないよう細心の注意を払っていききたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ライフステージ別栄養学	98名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

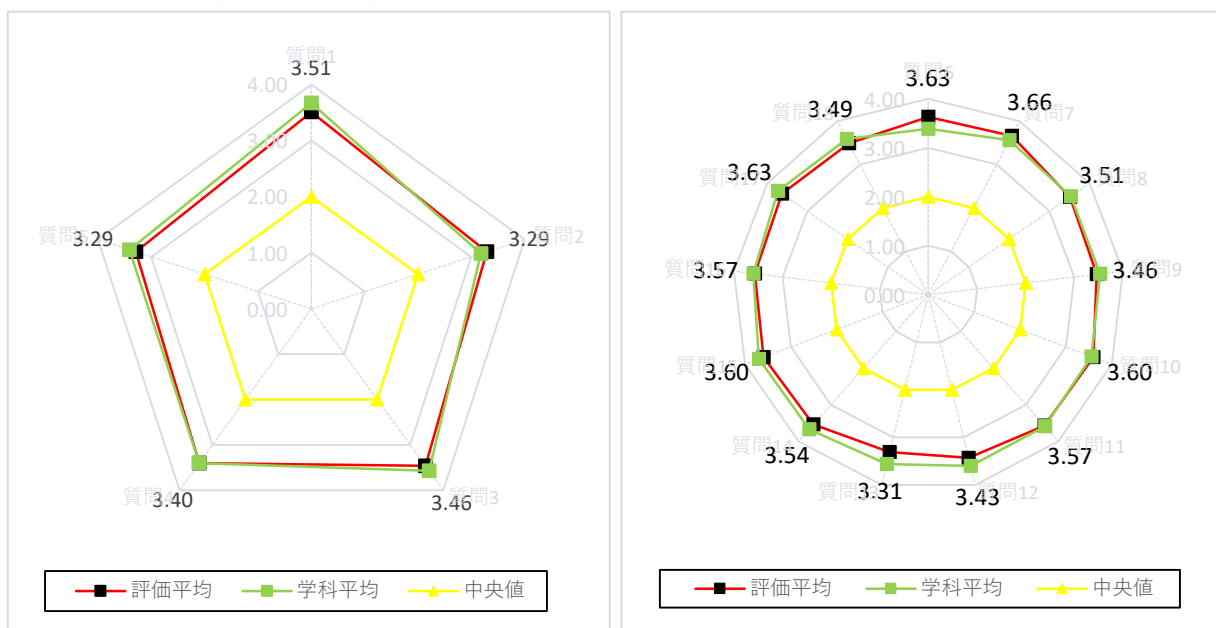
ライフステージ別栄養学の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、個別コメントを見ると授業のペースが速い、習熟度確認では解答にもう少し時間が欲しいと回答した者もいたことから、学生によっては理解度に差があると考えられるため、個々の理解度や反応に配慮し、より双方向的な授業となるよう改善の余地はあると思われる。また、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

遠隔授業では、反応ボタンを細やかに活用するなど授業スピード等学生の理解度に配慮しつつ、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、国家試験においても本科目は最も基礎となる科目でもあることから、オンライン型システムを活用し繰り返し練習問題に取り組める環境作りなど、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食事摂取基準概論	112名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

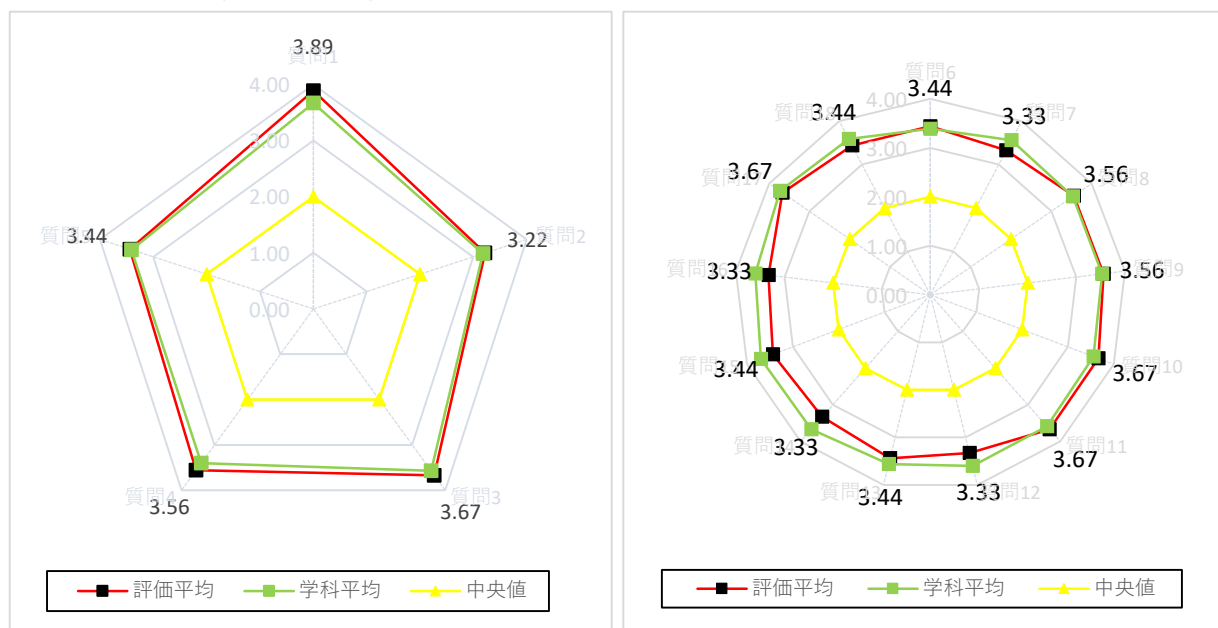
食事摂取基準概論の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、個別コメントを見ると授業のペースが速いと回答した者もいたことから、学生によっては理解度に差があると考えられるため、個々の理解度や反応に配慮し、より双方向的な授業となるよう改善の余地はあると思われる。また、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は多くの学生の苦手とする科目であることや学生によっては理解度に差があると考えられるため、学生個々の表情や反応について適宜確認する（遠隔時には、反応ボタンを細やかに活用する）など授業スピード等学生の理解度に配慮しつつ、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、国家試験においても本科目は頻出事項でもあることから、オンライン型システムを活用し繰り返し練習問題に取り組める環境作りなど、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		応用栄養学実習	93名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

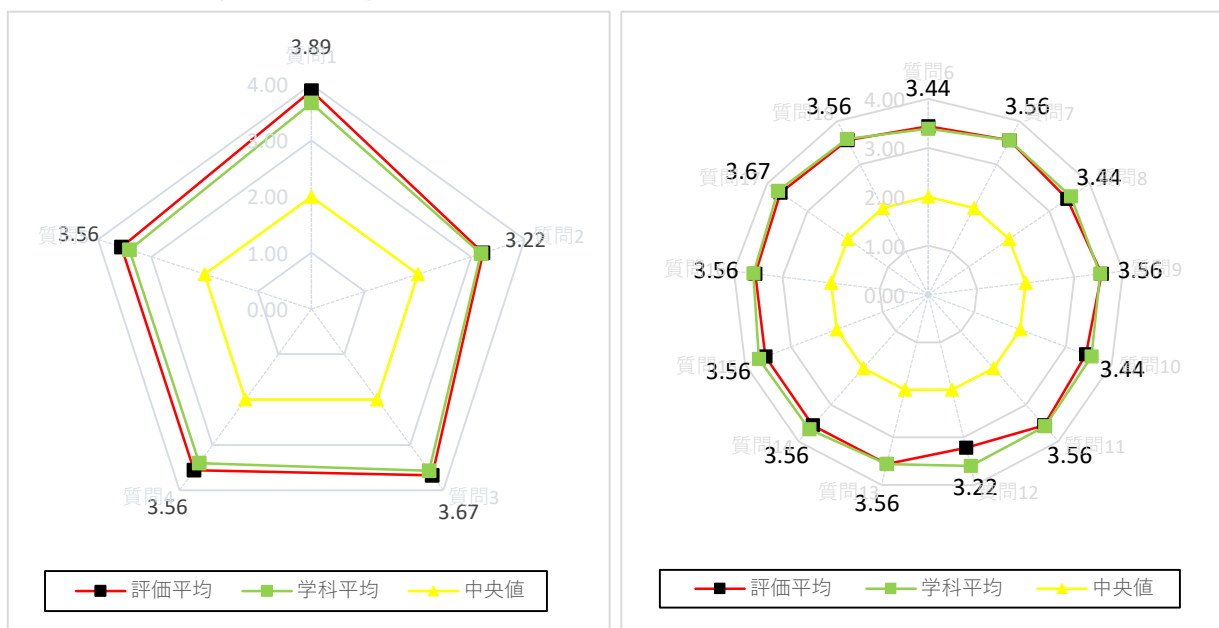
応用栄養学実習の授業評価においては、授業アンケート回答率が著しく低いため分析するには偏りがあるものの、授業内容に関する項目において学科平均と同じレベルにあったことや、学生からの「充実感を得た」「ライフステージに応じた献立ポイントが見えてきた」という声かけを頂いていることから、おおむね良好な内容であったと考えている。とはいえ、本授業は学生自身が考え、課題を発見・解決策を見つける展開を重視しているため、学生によっては“正解”というものがないスタイルが合わず、苦手とする学生もいるものではないかと思われる。特に、項目14～16の評価においては、積極的に質問する学生・質問が苦手とする学生では捉え方も異なるであろうと考えられ、これらの事由が学生からの評価として反映されたと考える。次年度以降は、学生誰もが楽しく、自主性や知的な問題に取り組む姿勢の向上が達成できるよう、学生個々のレベルに応じた授業取組みのための改善は必要であると考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

応用栄養学実習はグループワークを中心とする実習を主とする科目であるので、より意欲的に参加できる授業内容になるよう授業展開を工夫していきたい。また、個々の理解度や反応に配慮し、一人一人に積極的に声かけ、アドバイスを心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。さらには、授業アンケートへの回答率が低いことから、授業内で回答する時間を設けるなどの工夫が必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品衛生学実験	77名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

アンケートを回答した学生数は、①クラスが32名中6名、②クラスが23名中3名、③クラスが22名中0名で、全体としては77名中9名の回答で、とても低回答率であった。回答結果の質問1～5をみると、回答した学生はやる気をもって取り組んでくれていることがわかった。また、質問6～18をみると、おおむね学科平均と同じであったが、質問12が少し低くなっていることがわかった。さらにデータをみると、1や2をつけた学生はおらず3が多いことによって、学科平均より低くなっていることがわかった。つまり、一部の学生の批判でなく、全体的に声の大きさ、明瞭さ、話す速さにやや問題があると感じていることが分かった。総合評価は3.5以上で、自由記述でも特に記載はなかったため、授業事態にはおおむね評価されていると思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

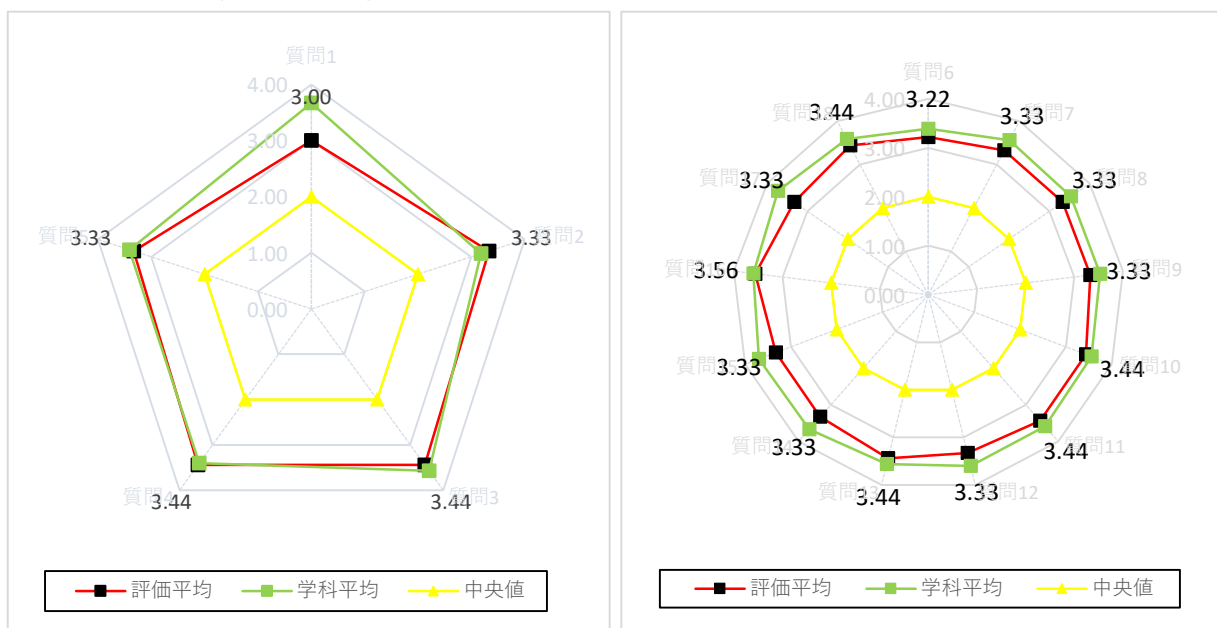
総合評価をみると3.5以上あったので、授業内容や授業方法は次年度も現在のまま実施していく。

ただ、実験の説明は丁寧に実施しているつもりであったが、学生は初めてのことで理解しにくいことが今回のアンケート結果でわかった。よって、話すスピードをゆっくりとし、また、デモンストレーションを増やしたり、視覚教材を使用することで、わかりやすく改善していきたい。

最後に、アンケートの回答率が11.7%で、今回のアンケートはごく一部の学生の意見になってしまっていた。より多くの学生の意見を聞きたいので、授業内に回答時間を設けるなどして、回答率を上げていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		運動指導論	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

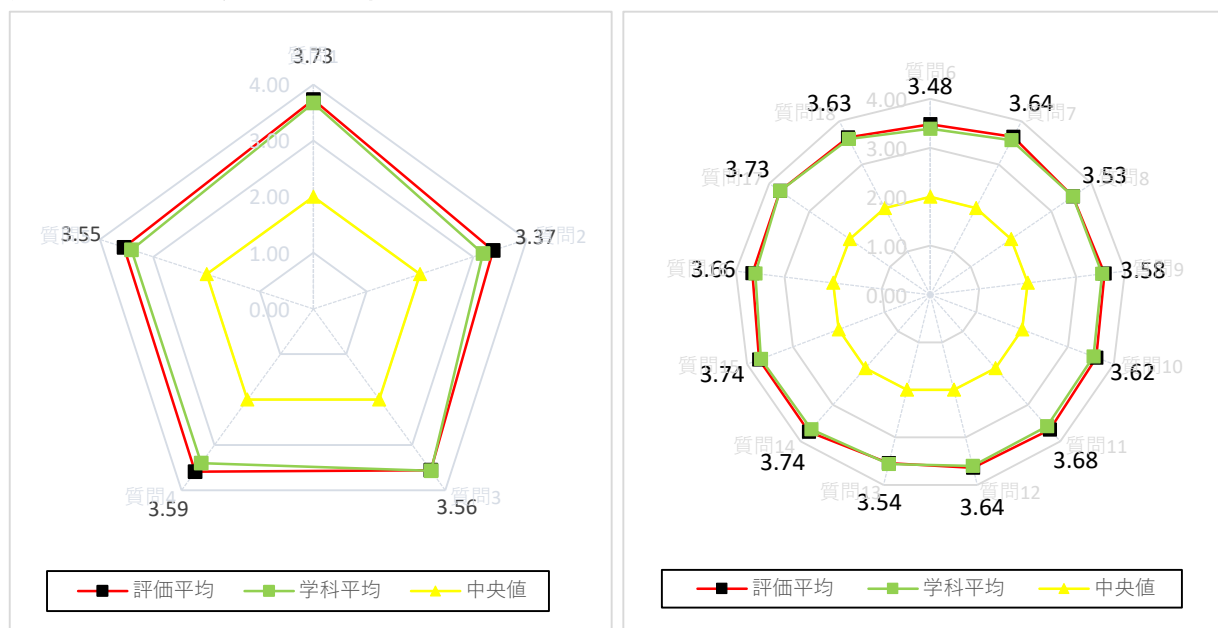
全ての質問の評価平均は3.0以上あるものの、2の評価や2の評価も質問項目によってはあることから、全体的には良好であるが厳しい評価もあることを受け止めなければならない。質問5や質問18の総合評価も同様である。今年度はコロナ禍の状況でオンライン授業であったことで、私自信もその準備や対応に戸惑った面もある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度のコロナ感染状況によるが、オンライン授業への取り組みの改善を行う必要がある。可能なら一部の対面授業も検討したい。今回の厳しい評価を少しでも改善できるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学演習Ⅱ	113名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

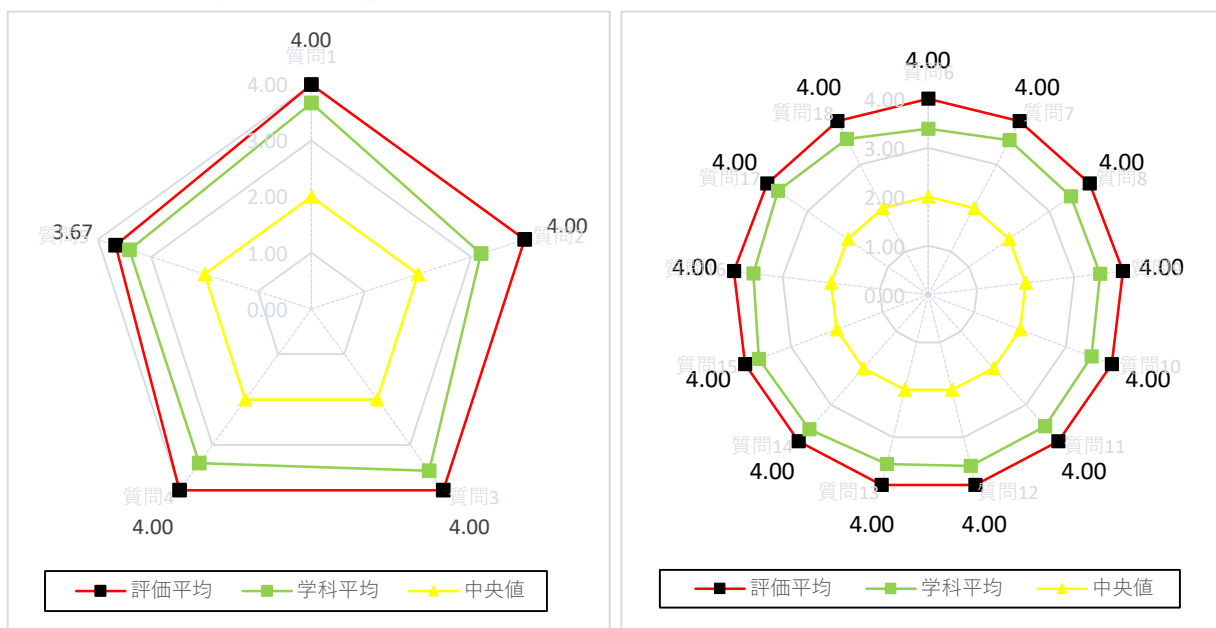
健康栄養学演習Ⅱの授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。遠隔授業で行ったにしては、おおむね満足できる内容であったと考えている。国家試験に関連した内容であり、学生の取り組みも真剣であり、成果は十分に上がっているように感じている。オムニバスの授業であるので、それぞれの教員の授業に対する取り組みは明らかではないが、総合した評価として学生の満足度が高いことから、うまくいっているように考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

国家試験に関連した内容であり、学生にとって難解に感じることもあると考えられる。この点については、4年時に関連した授業がたくさんあることから、十分に補えると考えられる。また、オムニバスであることから、一人の教員ができる内容が限られているが、この点についても、4年時に関連した授業がたくさんあることから、十分に補えると考えられる。いずれにせよ、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあり、おおむね満足できる内容であったと考えている。今年度も遠隔授業であることから、効果を上げるために改善の余地はあると思われるが、それぞれの教員が各自の専門分野で、毎年工夫を重ねているので、より評価が高まることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品の創製ゼミナール	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

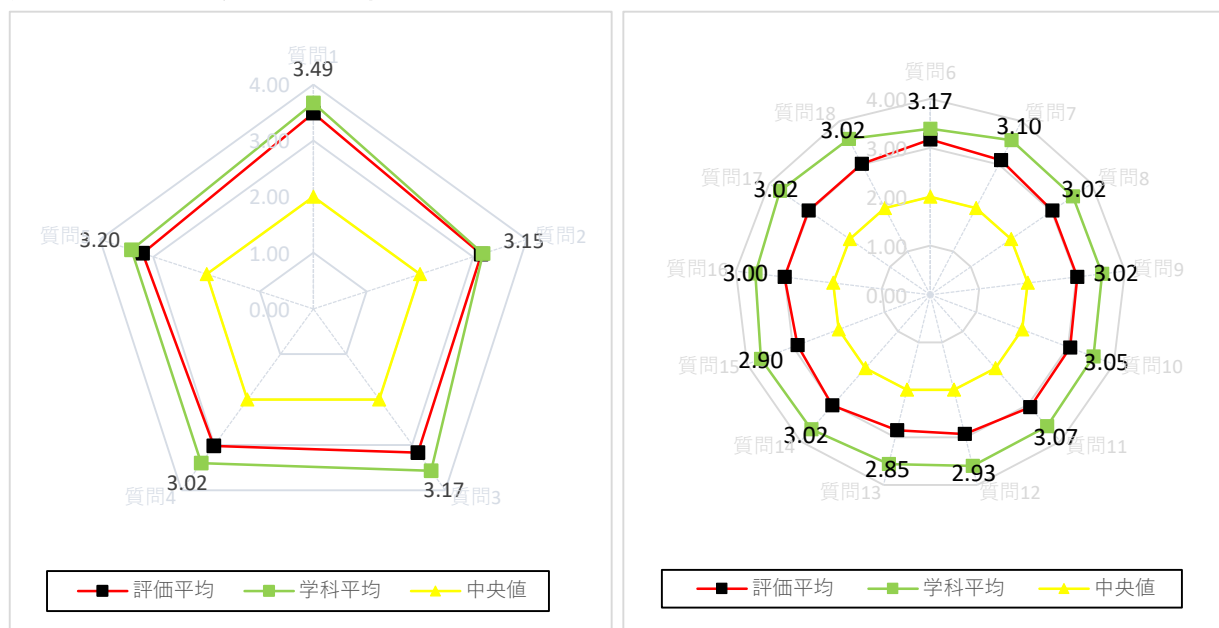
受講した2人も、評価していた。質問1～5では、学科平均より高得点であった。この科目は選択科目であり、受講したいと思って履修していることが大きく関係していると思う。また、質問6～18では、すべて評価が4であった。今年は履修者が2名に対し、教員2名で指導に当たったので、きめ細やかに指導できたことが高評価につながったと思われる。さらに、教員が指導したことをふまえ、学生が自分たちでできることを考え取り組むことで、教員の方も学生たちに好印象をいただき、学生もそれを評価されたことで、またやる気のでるといった好循環も生まれていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、学生のやる気を引き出しつつ、魅力ある商品開発ができるように、サポートしていきたい。そのためにも、第一回目の科目の説明が大切だと痛感している。商品開発は楽しい面もあるが、売れる商品を開発することは容易なことではない。また、他の授業が忙しいときに、色々と準備をしないといけないことが多々あったり、企業とコラボするため、厳しい面もあったりする。その点を理解した学生が受講することで、学生と教員が一丸となって商品開発ができると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		特別の支援を要する児童・生徒の理解	70名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、教職課程（教員免許状取得）希望の学生が履修する科目で、子ども学部以外の健康栄養学科、社会福祉学科、スポーツ健康福祉学科、そして看護学科の4学科の学生総勢70名が履修している。昨年度から開講しているが、昨年度修得できなかった学生も多く再履修しており、昨年度より11名の履修者増加となっている。担当教員は、これまで学校現場で特別支援教育に携わってきた実務家教員2名が担当している。全ての授業は遠隔（Teams対応）で行っているが、まず業者の不手際で授業開始前にテキストの購入ができなかったこともあり、第1回と第2回は、テキストは使わず配付資料を使って授業を行った。ただ、テキストが入手できても購入しない学生がいるなど、学科によって授業への取組の温度差があり、授業後の課題を提出しない学生が一部の学科で10名以上見られることがあった。

そのため、早い時期に失格者が続出し、再試験対象者も増加した。学生自身の授業への取組の自己評価の低さが、授業全般への評価にも大きく影響し、昨年度の授業評価より全般的に0.5ポイント程低下している。

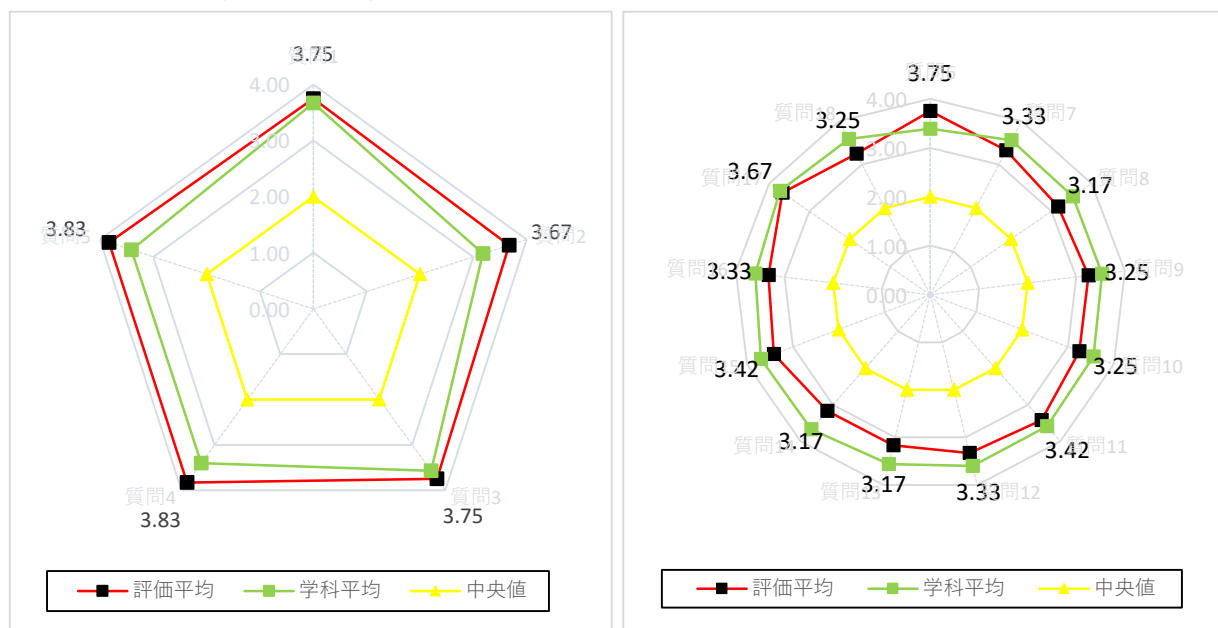
(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、授業前にテキストの購入ができるように業者に依頼すると共に、課題提出時の盗用・剽窃行為の禁止、定期試験（課題）の受験資格者についても、オリエンテーションの中でしっかり周知し、学生の学習意欲を高めたい。

また、引き続き配付資料を工夫しながら双方向の授業を行い、現在学校教育の課題となっている特別の支援が必要な児童・生徒の理解と支援方法について理解が深まり、教育実習でのより良い支援につなげていけるように、授業内容や指導方法を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		教育課程論	75名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答者は、健福49人中7人、健栄20人中1人、看護6人中4人、計75人中12人である。課題提出ができず、欠席を繰り返した学生（健福がほとんどで20名近い）を除けば、全体的に授業態度も熱心で自己評価が高く、授業にも肯定的な評価であった。但し、健栄の1名の回答者は、ほとんどの項目で授業者の評価を1にしており、不満の記述をしていた。課題提出がよくなかった学生であるが、このような不満をどう掘り上げるかが課題である。

本授業は、一方的に教え込む授業を避け、事前学習課題を課し、その学習成果を元に授業で学生に返していく反転授業に挑戦した。授業後は、事後課題を提出した。学生同士の直接的討論の代わりに、授業者の解説によって、学生自身の気づきや意見を交流させる疑似討論とした。全般に、学生の受講態度は熱心であったが、授業方法への戸惑いは当初、かなりあった。自主的な学習の重要性を、授業内容を通して伝えるように工夫し、努力した。大半の学生は、授業方式に協力し、よくついてきた。難解な理論的学問の内容にもかかわらず、ほとんどの学生が課題をきちんと提出し、よい成績を取ることができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

Teamsによる遠隔授業として、一方的に教え込む授業ではなく、反転授業実践への挑戦を進め、事前・事後学習や学習の自己評価（形成的アセスメント）を工夫した。また、公平性の観点から、課題提出の期限を厳密にしたが、システム上うまくいかないこともあった。学生の側にもネット環境、システム対応に差がある。授業者の努力ですべて解決するわけではないが、実情を踏まえて、最適な対応に心がけたい。さらに、学生の受動的な学習姿勢を主体的なものに転換できるように、その重要性を伝えつつ、授業改善に励むことが大事である。

次年度は、2年間の遠隔授業の取り組みを振り返り、より良い授業の改革を目指し、多様な観点から深く省察することを心がける。2021年度の反省点を次年度に生かしたい。とくに、本科目は、難解というイメージが付きまとう理論科目なので、実践的科目よりも抵抗がある。その前提のもと、学生の学びへの関心が高まるようにより良い授業デザインを求めたい。